

兵庫県立神戸甲北高等学校及び兵庫県立北神戸総合高等学校  
令和7年度学校関係者評価

ア Kiks 委員の活動について

Kiks 委員は、生徒会とは異なる立場で広報等の活動に取り組んでおり、新しい学校の取り組みである。活発に活動しており、明るく前向きな雰囲気づくりに貢献している。高校と地域の連携が難しい側面もあるが、その中で Kiks 委員の果たす役割は大きく、今後のさらなる活躍が期待されている。

イ 地域の現状と高校生への期待

北警察署の移転や市営住宅の取り壊し（約2ヘクタール）により、地域では跡地活用について議論が進められている。神戸市によるアンケート調査も実施されており、高校生の意見やアイデアにも期待が寄せられている。また、令和10年度には近隣中学校の統合される見通しがあるなど地域全体が大きな転換期を迎えている。

ウ 生徒の学校生活・行事での様子

体育祭では、生徒同士が調和しながら取り組む姿が印象的であり、全体として良好な雰囲気であった。また、通学時などの場面においても、高校生らしい振る舞いが見られるとの評価があった。課題はあるものの、生徒の努力や成長を応援したいという声が寄せられている。

エ 児童館との連携・ボランティアについて

児童館では中高生の居場所づくりや学習場所の提供を行っており、利用者数は昨年度26名から今年度は150名へと大きく増加している。一方で、2学期以降はボランティア参加が減少しており、今後は高校生が再び関わってくれることが期待されている。

単なる学習支援にとどまらず、ボランティア活動を通じて「形として残る成果」を生み出せるような取り組みが望まれている。

オ 学習・読書に関する所感

本を読むことは、長期的に見れば将来につながる良い影響が多いものの、継続することは難しいのが現状である。学校や地域としても、無理のない形で学びや読書に親しめる環境づくりが課題である。

カ 地域行事での活躍

桜の宮まつりにおける放送活動は非常に評価が高く、実際に行事の運営において機能し、活躍が目に見える形で表れていた。今後も継続した取り組みとして発展させていくことが期待されている。